

大阪市大自治会選挙

再建派大きく前進

去る五月九日から二十九日に行なわれた市大自治会中央執行委員選挙は、次の様な結果に終わった。

〔全学区〕		
①八木（主流派）	九二五票	当
②今岡（再建派）	六九〇票	次
③河村（主流派）	六七〇票	次
④佐賀（再建派）	六六八票	次
⑤多賀（主流派）	六二二票	次
⑥窪田（主流派）	六〇三票	次
⑦天川（再建派）	六〇二票	次
⑧山本（革新G）	五七〇票	次
⑨原田（主流派）	五三七票	次
⑩倉田（再建派）	五三一票	次
〔商学部区〕		
芹生（主）	一七一票	当
高木（再）	一二七票	次
〔文学部区〕		
吉田（再）	一三九票	当
戸梶（主）	八四票	次

〔経済学部区〕		
田宮（主）	一七九票	当
福田（再）	一七八票	次
〔法学部区〕		
白川（革）	一五四票	当
坂口（民）	六九票	次
〔理工学部区〕		
玄蕃（革）	二二九票	当
沢田（主）	二〇二票	次
〔家政学部区〕		
池田（主）	一八〇票	当
小池（革）	七〇票	次
〔医学部区〕		
山森（無所属）	一八七票	当
松下（革）	一二二票	次

解説

の中新執を先頭に市大自治会の真の統一と前進のための闘いを更強化にし、圧倒的な学友の支持の下にかならずそれを達成すること、全学友の前に宣言した。

これまで二年間中執多数派をしめてきた社会学同系の極左的政治主義と非民主的運営によってもたらされた諸困難を克服し、市大自治会の質的前進と大阪府学連の強化―学生戦線統一を真ににない部隊が自治会指導権をにぎるかそれとも、社会学同系が政権を維持するか―今回の市大自治会

選挙がもつていた政治的意義はきわめて大きなものであった。

選挙は結果が示すように主流派Ⅱ社会学同のヘゲモニーがかりうじて維持された（それも経済学部区の一票差によつて）ため今回の選挙がなつていた任務ははたされなかった。

それにもかかわらず、再建派が前年度中執二名から五名に前進したことは、今後、社会学同系の横暴を大きく規制し、市大学生運動を前進させる可能性をきりひろくものである。

明らかにするための政策討議の場である」という立場から自己の政策を積極的にのべ、終始選挙をリードした。一方主流派Ⅱ社会学同は当初「反主流三派を拒否せよ。斗う主流派に支持を」という他派攻撃を展開したが、そのような態度が学友の支持をうけないとみるや自らの政策を選挙用のマニフェストであれ、平和と民主主義、よりよき学園生活の

ために「のスローガンを前面におしだしてきた。このように選挙は再建派と主流派の政策対立という形ですすみ、再建派攻撃に熱中した革新グループ（平社同）と、はじめから終りまで「自治会をみんなの手にもどそう」という無内容な叫びしか行なわなかつた民青派は、選挙戦を通じて学友の正当な拒否にあい後景にしりぞいた。

再建派の統一の立場の堅持と政策の具体性と科学性が大きく前進した基本的原因である。

そして、民学同を先頭に学友の利益の立場に立ち、下から運動を組織していくことによつて社会学同の横暴を規制し、常に学生運動の正常な発展のために過去、不屈の活動を行つてきたことが前進の基礎をきづいたのである。

岡山大学支部結成さる

自治会選挙に前進

四月二十一日岡山大学で

を掌握した。

同盟岡大支部の結成総会が〇〇名の学友を結集して行なわれた。同盟から常任委員が出席し、その後の常任委員会、代表委員会が正式に支部として確認された。

結成後選挙の準備に入り五月十九日―二十八日選挙活動、二十八、九、三十一日投票日を闘い抜く中で中央執行委員会の指導的部分

全学区十七名の定員に対して十九名が立候補、平民学連支持の二名が落選した。学部は文・法・農を同盟支部が支持した学友が多数派となり、医は平民学連支持、教育は未定である。中執選挙の投票率は四二・六％であつた。これは例年に比らべて高い投票率であるが、まだ多数の学友の